住宅産業新聞
Housing Industry News
発行所 住宅産業新聞社
発行人 阿部 雅敏
〒160-0022 東京都新宿区新宿6-28-8
ラ・ベルティ新宿1101
TEL (03)6233-9611
広告 jutaku@housenews.jp
https://www.housenews.jp
ⓒ住宅産業新聞社 2026

≪ユーザー版≫

無　料

日頃からの備えと災害に強い住宅を

復旧・再建当時の熊本城

東日本大震災から15年
2度の震度7 熊本地震から10年
震災の教訓を風化させない

東日本大震災から15年、熊本地震からまもなく10年が経過する。記憶に新しいところでは2年前の能登半島地震も。改めて被災された方にお見舞い申し上げるとともに、これらの痛ましい災害から学んだ教訓を忘れないようにしたい。

2016年～25年の10年間で発生した震度5以上の地震は実に144回におよぶ。阪神・淡路大震災で初めて記録された「震度7」の地震が発生したのはこれまで7回。その内4回がここ10年で発生したものだ。もはやいつどこで大地震が発生してもおかしくない状態といってもいいだろう。備蓄や避難場所の確認など、日ごろからできる対策はもちろん、自宅の耐震改修や建て替えなど自分を守ってくれる対策も検討してみたいところだ。

耐震・防災住宅特集

国土交通省によれば2023年現在、戸建て住宅の総数は約2930万戸、耐震化率は約85%の2480万戸まで伸びている。しかしいまだに450万戸もの耐震性がない住宅が存在しているというのも事実。

地震の揺れは、地盤の強さによって異なる。地盤が弱ければ揺れも大きくなる傾向にある。建物に耐震性があると判定されても液状化や地盤沈下などが発生すれば被災することになる。自治体は、災害に対し予想される震度や被害の程度、避難場所や避難経路などの情報を、わかりやすく地図上に示した「ハザードマップ」を用意している。ハザードマップは近年多発化する水害の被害想定も掲載しており、土地を購入する際の参考にもなるので、ぜひ入手しておこう。

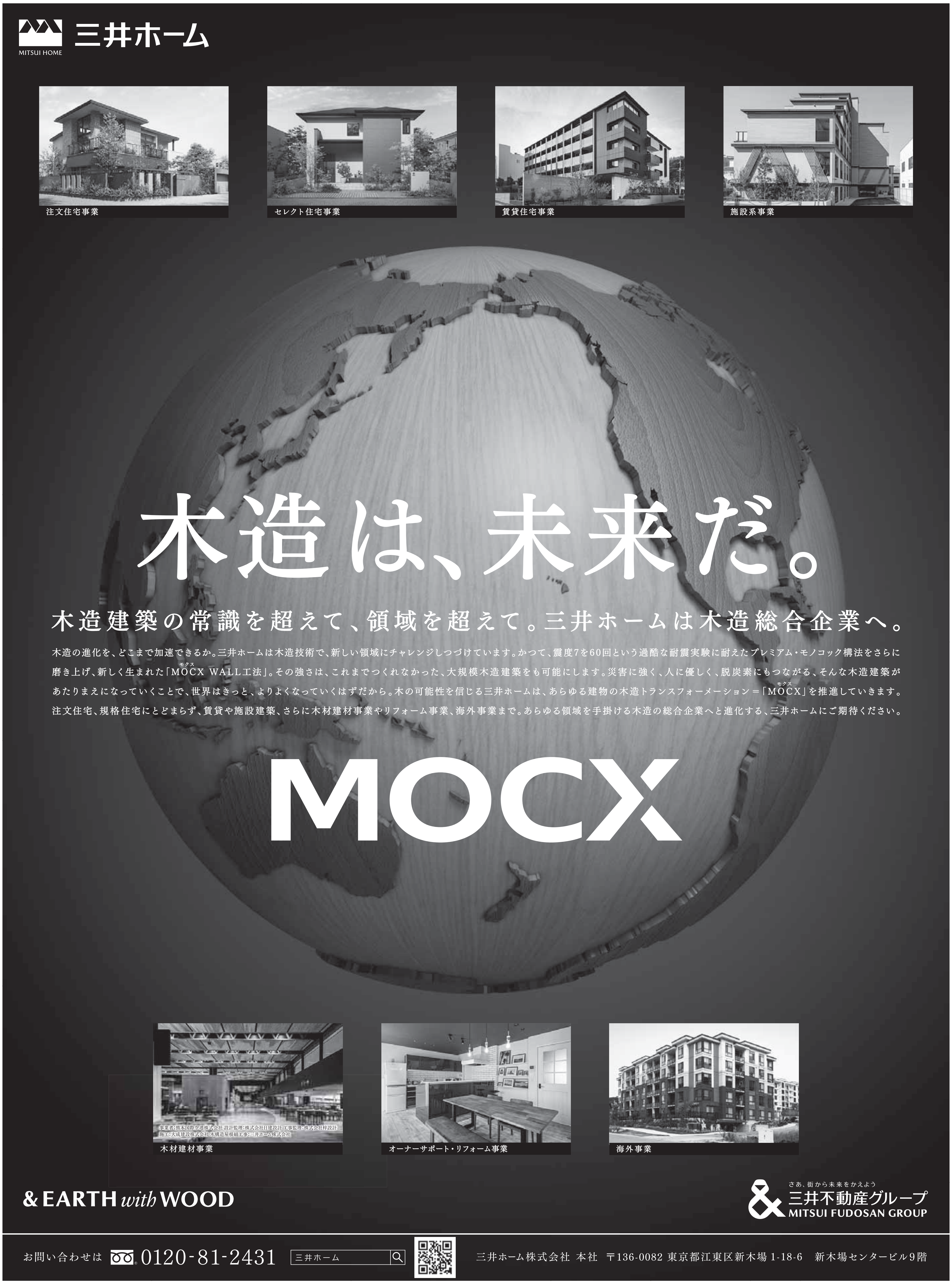
技術は日進月歩。最近のハウスメーカーの住宅は、高い耐震性能や高性能の制震機能を備えている。断熱性能や省エネ性能も高く快適な仕様にもなっている。エネルギーに関する住宅のレジリエンス性を高める機器として太陽光発電や蓄電池の普及も進む。

新築住宅の取得やリフォームには国が住宅ローン減税や補助金などの有利な制度を用意している。特に既存住宅のリフォームには、これまで以上に手厚く補助をする印象だ。迫りくる地震、頻発化する風水害に備えるためにも、これを機に建て替えやリフォームなどを検討してみてはいかがだろうか。

編集部からのお願い

この新聞は、マイホーム購入や賃貸経営等をお考えのユーザーの皆様向けに無料で配布しているフリーペーパーです。
貴社・貴所にご来店されるお客様にご自由にお取りいただける場所に置いていただければ幸いです。
また、お届けする部数を増やすなどのご要望がございましたら、下記までご連絡をお願いします。

問い合わせ先　住宅産業新聞社
TEL：03-6233-9611
jutaku@housenews.jp


MITSUI HOME
三井ホーム
注文住宅事業
セレクト住宅事業
賃貸住宅事業
施設系事業
木造は、未来だ。
木造建築の常識を超えて、領域を超えて。三井ホームは木造総合企業へ。
木造の進化を、どこまで加速できるか。三井ホームは木造技術で、新しい領域にチャレンジしつづけています。かつて、震度7を60回という過酷な耐震実験に耐えたプレミアム・モノコック構法をさらに磨き上げ、新しく生まれた「MOCX（モクス） WALL工法」。その強さは、これまでつくれなかった、大規模木造建築をも可能にします。災害に強く、人に優しく、脱炭素にもつながる、そんな木造建築があたりまえになっていくことで、世界はきっと、よりよくなっていくはずだから。木の可能性を信じる三井ホームは、あらゆる建物の木造トランスフォーメーション＝「MOCX（モクス）」を推進していきます。注文住宅、規格住宅にとどまらず、賃貸や施設建築、さらに木材建材事業やリフォーム事業、海外事業まで。あらゆる領域を手掛ける木造の総合企業へと進化する、三井ホームにご期待ください。
MOCX
木材建材事業
オーナーサポート・リフォーム事業
海外事業
& EARTH with WOOD
さあ、街から未来をかえよう
三井不動産グループ
MITSUI FUDOSAN GROUP
お問い合わせは 0120-81-2431
三井ホーム
三井ホーム株式会社 本社 〒136-0082 東京都江東区新木場 1-18-6 新木場センタービル9階

内閣府の『防災に関する世論調査』

昨年8～9月に約3千人を調査

我が国は災害大国といってもいいだろう。頻繁に起こる大規模な地震。台風の巨大化による風水害や線状降水帯などによる水害など、この手の話題には事欠かないような昨今の状況だ。

内閣府が「防災に関する世論調査」の結果を昨年12月に公表したのでご紹介しよう。調査は全国18歳以上の日本国籍を有する約3千人を対象に昨年8月～9月にかけて行ったもの。

それによると、まず自然災害について「我が国は、その位置、地形、地質、気象などの自然的条件から、地震、津波、火山噴火、台風や大雨などによる自然災害が発生しやすい国土となっている。ここ1～2年ぐらいの間に、一度でも家族や身近な人と、自然災害が起きた時に、どのように対処するかなどについて話し合ったことがあるか」について尋ねたところ、「ある」と答えた人の割合が63・6％、「ない」と答えた人の割合が35・1％となっている。

話し合ったことがない理由は、「話し合うきっかけがなかったから」が56・7％と最も高く、以下、「自分や家族、身近な人の身の回りで自然災害が起きたとしても、家族や身近な人とすぐに連絡が取れると思うから」が22・0％、「話し合う時間がなかったから」18・8％（以下全て複数回答）となった。

多くの人が「準備」対策なしも1割以上

大地震に対する備えについては、「停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している」が51・3％と最も高く、以下、「食料・飲料水、日用品、医薬品などを準備している」46・1％、「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」37・6％、「近くの学校や公民館などの避難場所・避難経路を決めている」37・0％などの順となっている。なお、「特に対策は取っていない」との回答も13・5％となっている。

風水害に対する備えについては、「台風情報や大雨情報を意識的に収集するようにしている」が73・3％と最も高く、以下、「停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している」54・4％、「食料・飲料水、日用品、医薬品などを準備している」44・6％、「近くの学校や公民館などの避難場所・避難経路を決めている」34・6％などの順となっている。なお、「特に対策は取っていない」は10・8％となっている。

昔から〝備えあれば憂いなし〟という。いつ起こるか分からないからこそ、日ごろから家族などと話し合いを持ち、最低限の備蓄などは整えておくことが大事であろう。

防災グッズチェックリスト（首相官邸 HP をもとに独自作成）

非常用持ち出し袋（リュックサック）に入れるもの

- □ 水（飲料と生活用水、最低 3 日分）
- □ 食品（最低 3 日分）
- □ ヘルメット、頭巾
- □ 衣類、下着
- □ 雨具
- □ ひもなしズック靴
- □ 懐中電灯
- □ 携帯ラジオ
- □ 電池、充電器
- □ マッチ、ろうそく
- □ 救急用品（包帯、消毒液、常備薬等）
- □ 使い捨てカイロ
- □ 非常用簡易トイレ
- □ 防犯ブザー・ホイッスル
- □ レジャーシート
- □ 新聞紙
- □ 軍手
- □ 洗面用具
- □ 歯ブラシ・歯磨き粉
- □ タオル
- □ 筆記用具
- □ マスク
- □ 手指消毒用アルコール
- □ 石鹸
- □ トイレットペーパー
- □ ティッシュ、ウエットティッシュ
- □ 体温計
- □ ブランケット
- □ 耳栓、アイマスク、エアー枕
- □ 布ガムテープ
- □ 身体ふきシート
- □ サランラップ（皿を洗わずに済む）

子どもがいる家庭の備え

- □ ミルク
- □ 使い捨て哺乳瓶
- □ 離乳食
- □ 携帯カトラリー
- □ 紙おむつ
- □ 携帯用お尻洗浄器
- □ ネックライト
- □ 抱っこひも
- □ 子どもの靴
- □ お尻ふき

女性の備え

- □ 生理用品
- □ おりものシート
- □ サニタリーショーツ
- □ 中身の見えないゴミ袋

高齢者がいる家庭の備え

- □ 大人用紙パンツ
- □ 杖
- □ 補聴器
- □ 介護食
- □ 入れ歯・洗浄剤
- □ 吸水パッド
- □ デリケートゾーン洗浄剤
- □ 持病の薬
- □ お薬手帳のコピー

以上のほか一緒に持ち出したいもの

- □ 貴重品（通帳、現金、パスポート、診察券、マイナンバーカード）
- □ 携帯電話
- □ コンタクトレンズ

HEBEL HAUS

ALL for LONGLIFE

自分らしい生き方に、
住まいを合わせていく時代へ。

価値観やライフスタイルが多様化するいま、

１つの住まいを家族代々住み続ける人もいれば、

マンションから賃貸住宅へ、

戸建住宅からマンションへ、

ライフステージや目的に応じて住み替える人も

いらっしゃいます。

住まいに縛られることなく自分らしい生き方に、

住まいを合わせていく。

そんな自由で豊かな暮らしを実現するために、

わたしたちは、家族のこと、

資産のこと、社会のこと

あらゆることを考え抜き、最適な答を

ご提案いたします。

各種資料のご請求・お問い合わせ先

下記電話番号またはメールアドレス宛にお問い合わせください。

TEL:**03-6899-3010**（土日祝除く9:00～18:00）

FAX:**03-6899-3400**

j-koho@om.asahi-kasei.co.jp

〒101-8101東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング7階
旭化成ホームズ株式会社 広報室

※当社個人情報お取り扱いに関しては下記サイトをご覧ください。
https://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/privacy.html/?link_id=AH_footer28

住宅が欲しい

ロングライフ思想を掲げて半世紀。
良質で長持ちする注文住宅や既存住宅をご提供いたします。

注文住宅

ヘーベルハウス

都市型住宅の先駆者。理想のマイホームを
フルオーダーメイドで建てることができます。

既存住宅

ストックヘーベルハウス

暮らしの安心と快適を実現する
もうひとつの住まいの選択肢です。

部屋を借りたい

高い居住性能と充実した設備を兼ね備えた賃貸物件をご提供。
暮らしにぴったりなお部屋がきっと見つかります。

お部屋探し

ヘーベルメゾン

様々なライフスタイルにあわせた物件を
取り揃えています。

お部屋探し（シニア向け）

ヘーベルVillage（ヴィレッジ）

介護施設ではなく、自立して暮らせる
シニア向けの賃貸住宅をお探し頂けます。

土地を活用したい

相続税対策や資産形成など、目的にあわせて
最適な土地活用プランをご提案させて頂きます。

賃貸住宅

ヘーベルメゾン

高い防災力をもつ安全安心な
賃貸住宅経営。
狭小の住宅地から大規模な
敷地まで対応可能です。

賃貸住宅（シニア向け）

ヘーベルVillage（ヴィレッジ）

超高齢社会のニーズを捉えた
賃貸住宅経営。
土地活用をとおして社会に
貢献できます。

中高層ビルディング

ヘーベルビルズ

最大8階建ての中高層
ビルディングの賃貸経営。
賃貸マンション・店舗・
オフィスなどへ展開可能です。

大地震で怖い火災 原因の多くは電気

いつくるかわからない巨大地震。今後、首都圏直下地震や南海トラフ地震の発生も予想され、各自が日頃から巨大地震に備えることが重要だ。

地震といえば少し前までは「地震が起きたら火を消せ」と言われていた。地震もさることながら、地震に起因する火災が恐れられてきた証だ。現在、石油ストーブなどは転倒すると消火する機能がついている。ガスコンロなどに関しては、ガスメーターが震度5程度の揺れを感知するとガスを遮断する。このため「火を消す」動作は重要ではあるが、まずは自分の身を守ることが最優先だ。

しかし火災の脅威は変わらない。被災地の映像を見ると多くの火災が発生している。ストーブやガスは対策されているのになぜ火災が発生するのか。

大きな地震が発生すると多くの場合、停電が発生する。すると使用していた電気ストーブやアイロン、ドライヤーなどのスイッチを切り忘れて避難してしまうケースがある。このため停電から復旧した際にそれらの電気製品が稼動を再開することで火災が発生するのだ。これがいわゆる「通電火災」と呼ばれるもの。阪神大震災で発生した火災のうち原因が特定できたものの実に6割以上が電気関係を原因とするものとされている。東日本大震災でも5割以上とみられており、改善が進んでいない状況だ。

通電火災対策に感震ブレーカー

通電火災とは

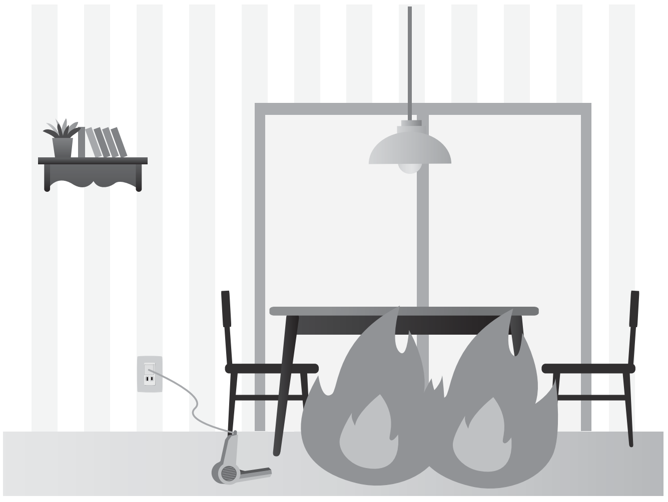
大地震などによる停電から復旧する際に発生する火災。スイッチが入ったままの電気製品や破損したケーブルなどが通電時に発火することなどが原因

例えば・・・

①ドライヤーなど使用中

②地震が発生、停電したため スイッチを切らずに避難

③停電から復旧、スイッチの入った ままの電気製品が原因で発火



<table>
<tr><th colspan="5">感震ブレーカーの種類</th></tr>
<tr><th></th><th>タイプ</th><th>価格</th><th>工事</th><th>主な特徴</th></tr>
<tr><td rowspan="2">分電盤タイプ</td><td>内蔵型</td><td>約５万円～８万円</td><td rowspan="2">必要</td><td>・分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し電力を遮断
・作動の信頼性が高い</td></tr>
<tr><td>後付型</td><td>約２万円</td><td>・既存のブレーカーに外付けするタイプ
・分電盤ごと交換するより安価</td></tr>
<tr><td rowspan="2">コンセントタイプ</td><td>埋込み型</td><td rowspan="2">約５千円～２万円</td><td>必要</td><td rowspan="2">・設置方法による作動の信頼性のばらつきが小さい
・コンセントごとに遮断が可能
・設置数が増えればコストが増加
・設置していないコンセントからの発火の可能性あり</td></tr>
<tr><td>差込み型</td><td>不要</td></tr>
<tr><td colspan="2">簡易タイプ</td><td>約３千円～４千円</td><td>不要</td><td>・安価
・設置が容易
・取り付け方などにより、作動の信頼性に劣る場合も</td></tr>
</table>

※内閣府資料から作成　※価格などは参考のため実際には異なる場合あり

価格は数千円～数万円まで 補助制度のある自治体も

通電火災を防ぐにはどうしたらいいのだろうか。避難する際にブレーカーを落としていけばよいのだが、停電の中、余震もある状況でブレーカーを落とす余裕はない可能性が高い。そこで設置をお勧めしたいのが「感震ブレーカー」だ。これは震度5強相当の揺れを検知すると自動的にブレーカーを落とすもの。感震ブレーカーには工事を伴う分電盤タイプとコンセントタイプ（埋込み型）、工事を必要としないコンセントタイプ（差込み型）と簡易タイプなどがある。

分電盤タイプは内蔵されたセンサーが揺れを感知することで電力供給を遮断する。コンセントタイプはコンセント内にセンサーがあり、設置したコンセントからの電力供給のみを遮断する。簡易タイプは地震によりおもりが落下するなど、重力やバネの力でブレーカーを落とすもの。価格は簡易タイプの数千円から、分電盤タイプの数万円まで幅があり、それぞれメリット・デメリットもある。お住まいの地域によっては感震ブレーカーの設置に補助金を出してくれる自治体もあるので、調べてみてはいかがだろうか。

SEKISUI HOUSE
積水ハウスは、「長く住み続けたい家」へ
これからの時代、
本当に必要なものってなんだろう。
そんな想いから、安全や環境に配慮した
「長く住める家」を提案してきた積水ハウスでは、
新たなデザイン思想「life knit design（ライフ ニット デザイン）」に
基づく家づくりを進めています。
何が好きか、何に惹かれるか、何を心地よいと感じるか。
そんな一人ひとりの〝感性〟を住まいへと編み込み、
暮らすほどに愛着が増していく「長く住み続けたい家」。
季節の移ろいを感じながら暮らせる住まいは、
人生に豊かさを与えてくれる
感性の器のような場所にもなりうる。
そう信じる私たちは、この新しい家づくりを通して、
グローバルビジョン〝「わが家」を世界一幸せな場所にする〟を
実現していきます。
life knit design
https://www.sekisuihouse.co.jp/kodate/lkd

防災性と省エネ性を併せ持つ住まい

三井ホーム　MOCX WALL（モクスウォール）工法

高強度耐震壁で安全・快適
2×4工法半世紀の集大成

2024年に創立50周年を迎えた三井ホーム。2×4工法半世紀の集大成として開発したのが新工法「MOCX WALL（モクスウォール）工法」だ。もともと同社の木造マンション「MOCXION（モクシオン）」のために開発された、壁倍率30倍相当の高強度耐震壁技術（特許取得技術）を戸建住宅向けに最適化した。これまでよりも災害に強い建築物を実現する「いのちを守る壁」として、また、間取り・デザインの自由度をあげ、開放的な住まいを実現する「夢を広げる壁」として提供を開始した。

スクリュー加工をしたMOCX WALLオリジナルのNX釘を使用した強力な耐力壁で、繰り返しの地震に強く、耐力の余裕によりプランの自由度も高くなる。また、施工品質向上のために開発したオリジナルデザインのパーティクルボードも採用した。従来からの2×4工法の特徴である耐震性、耐火性、断熱性をMOCX WALL工法でも追及しており、更なる快適性を実現した。

「耐震性」は、基本となる枠組みと、床・壁・屋根を6つの面として建物を支える強靭な「モノコック構造」が高い剛性を発揮、地震の揺れを受け止めて分散し、建物全体で抵抗することで優れた耐震性能を発揮する。

「耐火性」は、火の侵入、内部延焼を食い止める独自の外壁「BS（ブロック・アンド・シームレス）ウォール」を採用し、1時間加熱しても室内側の壁面温度は100℃未満（同社実験による）で、木材の出火危険温度をはるかに下回る耐火性能を実現。また、1階から2階、2階から屋根裏への「火の通り道」をシャットアウトするファイヤーストップ構造により、火元から他の部屋への延焼や躯体への損傷を防ぐ。

「断熱性」は、天井・壁・床と家全体を覆うように断熱材を高密度で充填することで「断熱等級6」に対応（一部オプション）。さらに「MOCX THERMO（モクスサーモ）」のダブル断熱で「断熱等級7」にも対応が可能となった。

ミサワホーム　スマートスタイル ルーミエ

高い耐震性と制震技術を搭載
ZEH仕様で快適な暮らしも

ミサワホームの「SMART STYLE Roomie（スマートスタイル ルーミエ）」は「家族の今を愉しみながら未来につなぐ、サスティナブルな住まい」をコンセプトに、カーボンニュートラルに貢献する「ZEH」を標準仕様とした新時代の企画住宅。2024年に「大屋根タイプ」「平屋蔵タイプ」「「スキップ蔵タイプ」の3タイプをラインアップに加え、「いつも」は太陽光発電システムなどの自然エネルギーの活用と高断熱・高気密設計で心地よく暮らし、「もしも」の際には、耐震性の高い木質接着パネル構造に制震装置「MGEO」を標準装備することで、家族を守りながら自立したエネルギー循環を支えるサステイナブルな暮らしソリューション「レジリエント×LCCM（ライフ・サイクル・カーボン・マイナス）」を提案している。

「大屋根タイプ」は、1階領域と2階領域を連続させ吹きおろした独特な屋根形状「大屋根エコフォルム」により、コンパクトな企画住宅でも大容量の太陽光発電が搭載可能となる。さらに独自の木質パネル接着工法による「高気密・高断熱」の構造体に、家庭用燃料電池システム「エネファーム」を標準装備して、LCCM住宅を実現している。

独自の屋根形状により、1階の「インナーリビング」は屋根形状に沿って天井が高くなる勾配天井に。1階と2階の「マルチコモンズ」が勾配天井を介してつながることで、別フロアにいる家族の気配を身近に感じられる空間構成「上下空間連続設計」を提案した。リビングの天井高は最高で約4・7メートルあり、実際の面積よりも広々と感じられる工夫だ。

「平屋蔵タイプ」は、約31坪のコンパクトな床面積ながら、約23畳、最高4・0メートルまでの高天井を確保できる大空間LDKと、多彩に活用できる空間「マルチコモンズ」を含む3つの居室を設け、さらに2つの大収納空間「蔵」を備えることで、子育て家族の暮らしにも対応できる平屋を実現する。

Good NeighborWood
森と人は、良き隣人になろう。
もっと高く、もっと速く。
何と競っていたのだろう。
世界が成長することは、二酸化炭素を出すことでした。
ここから変わる。
木から離れた人間は、もう一度木に戻る。
二酸化炭素を減らすには、木の力が本当に必要だから。
森と良き隣人になろう。
木の力と人の力で、互いに長く生きてみよう。
それは今あなたが思う幸せに、
案外近いのではないだろうか。
木と生きる幸福
住友林業

防災性と省エネ性を併せ持つ住まい

大和ハウス工業　災害に備える家

地震に備える耐力壁「キュレック」と優れた停電対応性能でオーナーを守る

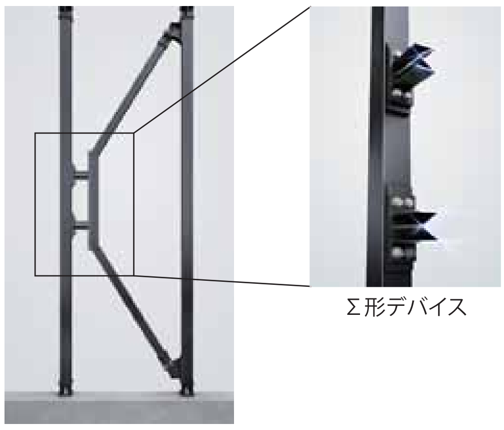
大和ハウス工業が防災配慮型住宅として提案しているのが「災害に備える家」だ。特徴は、①雨天でも約11日間の停電に対応できる「全天候型３電池連携システム」＋「Ｖ２Ｈ蓄電システム」の搭載、②新耐力壁「Ｋｙｕｒｅｋ（キュレック）」により、持続型耐震の性能を向上、③飛来物の衝突による割れに強い「防災瓦」「防災防犯ガラス」を採用――の３点。

特に耐震性能については、独自開発したエネルギー吸収型耐力壁「キュレック」が大きな威力を発揮する。キュレックは強い揺れを受けるとしなやかに動き、地震エネルギーを効果的に吸収する独自の「Σ形デバイス」を２つ配置している。このダブルデバイス化により持続型耐震の性能を向上させた。巨大地震に耐え続け、地震後も安心して住み続けられるので心強い。またキュレックを１階に配置することで同社の従来商品よりも建物変形量を最大２分の１低減する。

大地震や台風等の停電時にも力を発揮する。「全天候型３電池連携システム」は太陽光発電とエネファーム、リチウムイオン蓄電池を連携させるもの。さらに電気自動車を電池化するＶ２Ｈ（Ｖｅｈｉｃｌｅ ｔｏ Ｈｏｍｅ）蓄電システムを追加することで約11日間普段と同様に家電製品を使用することが可能だ。

北海道胆振東部地震を経験されたオーナー様は、「地震発生時は蓄電池のおかげで照明を使えたので、すぐに停電とは気付きませんでした。蓄電量はその時に残り50時間。太陽光発電でも蓄電されたので、停電を気にせず過ごせました」という。

また、熊本県のオーナー様は「台風等で停電が多いエリアで、蓄電池が何度も活躍しています。２０１６年の熊本地震の本震があったのは深夜１時。停電で真っ暗の中、蓄電池を作動させてＴＶをつけると津波の避難勧告が。発電設備のない隣家にも声をかけ、リビングの照明で避難の支度。落ち着いて乗りきれました」と防災に備える家の高い安心感を語っている。


Σ形デバイス

積水ハウス　グリーンファースト・ゼロ

ゼロエネハウスで災害備え　発災時グループ全体で支援

積水ハウスが推進する『グリーンファースト・ゼロ』とは、住まいそのものの強靭さに加え、同社グループの災害時サポート体制でレジリエンス性を高めた防災ゼロエネルギーハウスを指す。同社では、この考え方に基づく防災性に優れたゼロエネ住宅の普及により、気候変動に伴う激甚災害への備えと地球温暖化防止に貢献する住まいづくりを推進し、ＥＳＧ経営のリーディングカンパニーを目指していく。

同社の防災ゼロエネルギーハウスとは、地震や台風など自然災害に対して、まず建物自体が耐えられる頑丈さを備え、かつ被災後にも生活空間、水・食料・エネルギーを確保でき、生活が続けられる住まい。エネルギー確保に関してはＺＥＨの構成設備が役立つ。日中は最も大きな電力が確保できる太陽電池（ＰＶ）、ガスと水道の供給があれば、雨天時や夜間でも発電可能な燃料電池がベースとなる。これに、ＰＶや燃料電池で発電した余剰電力を備える蓄電池との３電池連携システムがあれば、停電が複数日続いても、平常に近い暮らしが可能だ。

災害発生時には、建物自体のレジリエンス性により、まずはオーナーの安全を確保。オリジナル邸別データ管理システム「災害訪問アプリ」や物流ネットワークを駆使し、安否や被災の状況を把握。その上で、全国の工場を地域復旧支援の拠点として、居住者の暮らしを復旧させるための体制を整える。

東日本大震災では迅速に対策本部を設置、発生３時間後には支援物資の輸送を開始。また、２０１９年の千葉県南部を襲った台風15号では発生から３日程度で被災エリアの全オーナー（建築主）宅の被害状況の確認と被災した３００棟の初期対応を完了させた。

同社は、04年に蓄電池を初めて標準搭載し、災害時の自立生活を目指した「省エネ・防災住宅」を発売。以降、住まいのレジリエンス性強化に取り組み、グリーンファースト・ゼロでもこれを深化させながら推進している。

先進の防災・減災ソリューションを詳しくご紹介した「MISAWA-LCP」カタログを差し上げます。
HP ホームページ www.misawa.co.jp/catalog/
詳しくはWEBで　ミサワホーム　検索
※当社では、お客様の個人情報を、建築・リフォーム工事、不動産取引に関する情報・サービス案内のお届け、訪問、各種プランのご提案、アンケート調査等の実施目的で利用いたします。その他詳細は、www.misawa.co.jp/privacyをご覧ください。
新築事業 | ストック事業 | まちづくり事業 | 海外事業 | ウエルネス事業
MISAWA ミサワホーム

防災性と省エネ性を併せ持つ住まい

住友林業　ビッグフレームレジリエンス

高い耐震性と快適さ両立　平屋住宅の対応力も強み

住友林業のビッグフレーム（BF）構法の戸建住宅「ビッグフレームレジリエンス」は耐震性の高い構造に、さまざまな災害対応設備を搭載することで、防災力を高めた住まい。日本の気候風土に最適な木造住宅を独自のテクノロジーで革新することで、格段に強度を高め、非常時の安心も平常時の快適性も実現した木の家となっている。

BF構法は、同社が開発した日本初の梁勝ちラーメン構造。主要構造材に、一般的な105㍉角柱の5倍もある「ビッグコラム（大断面集成材）」を用い、接合部を金属同士で緊結する「メタルタッチ接合」を採用し、構造躯体を強固に一体化。

3階建ての実大モデル実験で、東日本大震災や阪神・淡路大震災級の震度7クラスの地震波や強い余震波を、繰り返すこと246回もの加振に耐えたことで、構造体の耐震性が維持され続けることを確認している。

住宅金融支援機構の「省令準耐火構造」基準にも標準仕様で対応。壁や天井の内部を区分する「ファイヤーストップ構造」により、上下階間や各部屋間の火災拡大を抑制する。一般の木造住宅に比べて火災に強く、火災保険料が割安で済む。大型化する最近の台風にも耐える性能も、実大モデルで実証済みだ。

ライフラインが遮断された非常時にも、エネルギーの自給自足や充実した備蓄スペースなど、家族の命を守るシェルターとして、その防災力を発揮。復旧までの一定期間生活を続けられる機能を備えている。具体的には、太陽光発電システムや蓄電池など、災害時に必要な電力を確保。平時は毎日の必要な電気を賄うことが可能だ。

近年、平屋を検討する方が増えてきており、同じ延床面積なら屋根の面積が2階建てよりも広く取れるため、太陽光パネルの設置容量も増やしやすい。初期投資はかかるが、日々の光熱費は節約できる。さらに、断水時の生活用水のための雨水タンク、大量の備蓄品を収納可能な小屋裏収納も設定している。

旭化成ホームズ　フレックスアスガルド

断熱等級6標準、新外壁で　都市部の理想の暮らし追求

都市型住宅を得意とする旭化成ホームズは、2022年に都市郊外の大規模邸宅を新たなターゲットとした「ラティウスRDシリーズ」を発売、その後も同シリーズを継続的に市場に投入、戸建ての大型化・高付加価値化を推進してきた。

昨年1月に発売した重量鉄骨3階建て新商品「フレックスアスガルド」は、アッパー層に向けた大型住宅商品。断熱等級6を標準仕様としており、新外壁デザイン・色を設定、重量・システムラーメン構造に新たに天井高バリエーションを追加することで、都市における理想の暮らしを追求している。商品名のアスガルドは、北欧神話の神々が住まう孤高の城塞都市を表す固有名詞をモチーフに、暮らしを豊かにする叡智を結集した都市邸宅、という新たな意味を持たせた。一昨年5月に発売した「ラティウスRD余白の在る家」で提案した、適度な視線の抜け感を生み出すシェルウォールに対応する。

1、2階の天井高に2560㍉のハイシーリングを採用、折り上げ天井やダウンフロアなどを組み合わせることで、多彩な天井高を実現する。ハイシーリングは全館空調システムを天井に仕込みやすいというメリットもあり、特に都市部では2階リビングを設定するケースが多く、重量鉄骨による大開口とフレーム枠をスリム化した新サッシ、フルフラットベランダを組み合わせることで、広がりのある開放的なリビング空間を実現する。

新外壁デザインとして、柱状節理をモチーフにしたランダム縦目地のデザインを導入。硬く、希少な鉱物であるレニウム鋼をモチーフにした新色を追加、従来の黒系色（玄武）より明度が低くマットな質感を演出する。新外壁デザインと新色を組み合わせることで、壮麗な縦のラインが邸宅に伸びやかな印象を与え、重厚な黒が力強い存在感を醸し出す。さらに水平ラインを強調するH型鋼をモチーフとした新外装のストラクチャーズスラブを加えることで広がりと安定感を演出する。

伸びやかな開放感はそのままに、「断熱等級6」という心地良さを。

天井高2m72cm標準の大和ハウスの住まい。その“高さ”によって、実面積以上の広がりを感じる大空間を実現します。さらに、伸びやかな開放感はそのままに、独自の内外ダブル断熱で未来基準の「断熱等級6」を標準化。外は酷暑や寒波でも住まいの中では一年中心地良さに包まれるとともに、光熱費を大幅に削減できます。

地震大国・日本だからこそ。「持続型耐震※3」という安心も。

一般的に柱や壁を減らして空間を広くすると、その分、耐震性能は低くなってしまいます。でも大和ハウスは天井高2m72cm標準で柱や壁を最小限にした大空間なのに、「持続型耐震」の住まいを実現。繰り返す巨大地震や余震に耐え続ける“粘り強さ”を発揮することで、日々の暮らしに安心できる開放感をもたらします。

※1：間取り・仕様等により「断熱等級6」に適合しない場合もあります。xevo M3（ジーヴォ・エムスリー）と省エネ地域区分1～4地域（寒冷地および沖縄県等）を除く。※2：xevo Σ および xevo Σ PREMIUMで設定。天井高は2m40cm、2m72cm、さらに2m80cm、3m8cmと3m16cm（1階のみ）の仕様を選ぶことができます。間取りや建設地、建築基準法（法令）等により、対応できない場合があります。※3：軽量鉄骨造1・2階建て商品「xevo Σ」で標準。重量鉄骨造3階建て商品「skye3」では制震が標準です。

Daiwa House®
大和ハウスグループ

大和ハウス工業株式会社〈住宅事業本部〉
東京本社　東京都千代田区飯田橋3丁目13番1号　〒102-8112　Tel 03-5214-2172
www.daiwahouse.co.jp

ECO FIRST
エコ・ファースト企業
環境大臣認定
We Build ECO
Daiwa House Group®